

白鳥新道2期区間の整備

■ 現状と課題

〔共通・継続〕

室蘭市を中核とする室蘭圏（西胆振地域）は、国際拠点港湾室蘭港の流通機能や高い工業技術集積をはじめ、噴火湾沿岸地域における土地生産性の高い農業や増養殖漁業、さらには、「北海道洞爺湖サミット」の開催地となった支笏洞爺国立公園、その中核に位置する全国有数の温泉地、登別温泉等の全国的に有数の観光資源等、多様な産業が集積した地域であり、北海道経済の発展拠点として重要な役割を担っている。

西胆振地域には、約30年周期で大噴火をくり返す有珠山をかかえ、噴火時の避難及び復興への対応や災害医療の充実が求められており、室蘭圏の広域救急医療が集積している室蘭市中央地区にアクセスする白鳥新道2期区間は、「命の道路」の役割が期待されている。また、東日本大震災を受け、西胆振地域の広域行政機関が集中する室蘭市中央地区の災害時の機能維持が求められ、津波防災・減災対策に白鳥新道の整備は重要なものとなっており、昭和57年に都市計画決定されているが、着手の見通しが立っていない白鳥新道2期区間の早期事業化は、西胆振地域全体の願いとして高まっている。



■ 要望内容

- 白鳥新道2期区間の早期事業化

■ 事業効果

- 災害拠点病院へのアクセス向上による防災体制・防災医療の強化
- 西胆振・渡島・後志圏における広域救急医療体制の強化
- 国際拠点港湾室蘭港耐震強化岸壁・広域防災フロート基地へのアクセス向上による防災体制の強化
- 西いぶり定住自立圏中心市の官公庁・むろらん広域センタービルなどの広域拠点施設へのアクセス向上による都市機能強化
- 北海道、東北・北関東・甲信越・北陸15県のPCB廃棄物処理事業やシップリサイクルなどの地域プロジェクト展開への支援強化
- 西胆振地域の産業出荷物や農林水産物など流通機能の利便性向上と臨海部産業に対応した港湾・流通機能の強化
- 交通結節点へのアクセス向上による主要観光地へのアクセス向上、広域連携による観光の振興強化
- 室蘭市蘭西地区のまちなか再生及びびみなとまちづくりと連携し、個性ある地域の形成と多様性のある発展の支援強化